

妊婦さん・産婦さん

赤ちゃん（およそ生後1か月まで）

の 健診・検査の費用助成について

剣淵町では、健康な赤ちゃんの誕生を願い、妊婦さん、産婦さん、赤ちゃんの健診・検査の費用助成をする制度があります。妊娠届けをした日から、妊婦さん、産婦さん、赤ちゃんともに健康にすごせるよう、ぜひご利用ください。

※注意※

- いずれの費用助成に関しても、剣淵町から転出した場合には対象となりませんのでご注意ください。また、転出先の市町村での費用助成に関してご確認することをお勧めします。
- 剣淵町内での転居や氏名の変更により手続きが必要になる場合がありますので、その際にはお知らせください。



◆妊産婦健康診査にかかわる費用の助成◆

妊産婦健康診査は、定期的に健診を受けることで妊産婦さんの健康状態と赤ちゃんの発育状態を常にチェックし、安心・安全に妊娠期間を過ごすことが目的に行われる健診です。また、もし健診で妊婦さん、産婦さんや赤ちゃんに異常が見つかった場合でも、早期に適切な対応を取ることができます。町内には産科医療機関がないため、交通費の費用助成も行っていますのでぜひご利用ください。産科医や助産師の指示に従い、必ず健診を受けましょう。



☆健診の費用の助成☆

対象 剣淵町に住民票のある妊婦、(妊娠届出以降) 産後概ね 1 か月以内の産婦

内容 妊婦一般健診(妊娠全期間を通して 14 回前後) および 精密検査(一般健診の結果必要となった検査費用) および 産婦健康診査(2回以内) にかかわる費用の助成
※外来での治療及び入院にかかる費用は除きます

方法

妊娠届出時に、[妊婦一般健康診査受診票]と[超音波検査受診票]と[産婦健康診査受診票]の3種類の受診票を発行します。健診の日には母子手帳と受診票を産科医療機関の窓口へ提出してください。受診票に記載されている検査を無料で受けることができます。

※健診の費用は、医療機関から健診の結果とともに町に請求され、町が医療機関に直接お支払します。

道外の医療機関では受診票は使えません。また、道内でも一部の医療機関では使えない、もしくは自己負担が発生する場合があります。その場合は、医療機関の窓口で支払いし、後日申請することが可能です。(申請の方法は、精密検査と同じ方法です)

<精密検査の場合>

医療機関の窓口で、検査にかかった費用を支払い、ふれあい健康センター窓口(健康福祉課保健グループ)にて、申請手続きをしてください。後日、指定口座へお振込みいたします。

自己負担した健診(検査)費用の助成を申請したい場合必要なもの
領収書・印鑑・振込先を確認できるもの(通帳など)
*検査項目がわかるように明記されたものもしくは診療明細書を添付されたもの

発行市町村名	剣淵町	№	1
妊婦一般健康診査受診票(医療機関用)			
(第1回標準受診時期:第8週前後)			
フリガナ	ケンブチ ハナコ		
妊婦氏名	剣淵 花子		
生年月日	平成 5年 1月 1日生(25)歳		
居住地	上川郡剣淵町 仲町 28番 1号		
電話番号	090 - 1234 - 5678		
妊娠届出日	XX年 4月 1日	分娩予定日	XX年 11月 11日

健康診査の結果

健康診査年月日	年 月 日
検査結果	HbE抗原 (-)
	HCV抗体 (-)
	HTLV-1抗体 (-)
	1 異常なし 2 要精密健診 3 要治療
実施委託機関名	
担当医師名	

(注)
1 この受診票1枚につき1回受診することができます。
2 この受診票での標準受診時期は妊娠8週前後ですが、この時期以外であっても市町村が交付した場合は、標準受診時期にかかわらず、この受診票に基づき健診を受けることができます。
3 妊婦一般健康診査を受けるときは、この受診票及び母子健康手帳を必ず定められた医療機関へ持参してください。
4 この受診票で公費負担となる健診項目は、以下の通りです。
問診・診察、血圧・体重測定、尿検査(尿中一般物質定性半定量検査)、血液学的検査(東精学検査グループ)、免疫学的検査(ABO血液型・血液型、不規則抗体、梅毒血清反応、HIV抗体検査、トキソプラズマ抗体、B型肝炎抗原、C型肝炎抗原、HTLV-1抗体)、子宮頸がん検査、細菌性膣炎検査
なお、この受診票で受診可能な健診項目の中には、超音波検査は含まれていません。
5 この受診票を使用しても、上記項目以外の検査、疾病の治療等、診療内容によっては自己負担となります。
6 この受診票を使用できるのは、剣淵町内にお住まいの方(住民票のある方)です。剣淵町を転出された場合は、使用できませんので、転出先の市町村で受診票等の交付を受け

- ① 妊婦一般健康診査受診票 No.1 (第8週前後) ~No.14 (第39週前後)
 - ② 超音波検査受診票 No.15-1 ~ No.15-14
 - ③ 産婦健康診査受診票 No.1 ~ No.2
- *いずれの受診票も妊娠届出時には8回分 (No.1~No.8、No.15-1~No.15-8) まで発行しています。9回目以降と産婦の分は、第28~30週前後で保健師から体調確認等連絡をさせてもらった上でお渡しします。

☆妊産婦健康診査にかかわる交通費の助成☆

対象 剣淵町に住民票のある妊産婦(妊娠届出以降)

内容 剣淵町から受診先の最寄のJR駅までの交通費の往復代を助成
名寄市立病院の場合 (剣淵~名寄 640円 の往復代) 1,280円
士別市立病院の場合 (剣淵~士別 230円 の往復代) 460円
旭川市内の病院の場合 (剣淵~旭川 930円 の往復代) 1,860円

方法 妊娠届出時に、申請書を3枚記入していただきます。受診票を用いて受けた妊産婦健診の結果は、翌月町に報告され、受診先と回数を町で確認します。数か月分まとめて指定口座にお振込みいたします。

※里帰り出産などにより、名寄市、士別市、旭川市以外の医療機関を受診した場合は、費用助成の対象とはなりません。

4月~7月に受けた健診...8月下旬~9月上旬にお振込み
8月~11月に受けた健診...12月下旬~翌年1月上旬にお振込み
12月~翌年3月に受けた健診...4月下旬~5月上旬にお振込み



◆新生児聴覚検査にかかわる費用の助成◆

赤ちゃんの聴覚に異常がないかを早期に発見するための検査です。生まれつき、両側の耳の聞こえに異常があるお子さんは、1,000人に1～2人とされています。この検査により、聴覚の異常を早期に発見し適切な治療を行うことで、言葉の発達への大きな効果が期待できます。聞こえの障害は目に見えず発見が遅れがちですが、早期に発見するためにも、新生児聴覚検査を受けることをお勧めします。



多くは、出産した医療機関において、出生後2～退院前に行われます。赤ちゃんが眠



っている間にヘッドホンのような機械を当てて、その反応を記録する方法で、5分程度で実施でき、痛みは全くありません。出産予定の医療機関で事前に実施の有無を確認しておきましょう。実施していない場合は、他院出生時の受け入れをしている医療機関がありますので、そちらを受診しましょう。

対象 剣淵町に住民票のある生後3か月までの乳児の保護者

内容 自動聴性脳幹反応検査（AABR 検査）またはスクリーニング用耳音響放射検査（OAE）を受け医療機関に支払った検査料の額を、上限 8,000円として助成します。

方法 医療機関の窓口で検査にかかった費用を支払い、ふれあい健康センター窓口（健康福祉課保健グループ）にて、申請手続きをください。後日、指定口座へお振込みいたします。

自己負担した健診（検査）費用の助成を申請したい場合必要なもの
検査結果がわかるもの*1・印鑑・領収書*2・振込先を確認できるもの*3
 *1 母子手帳のコピーなど *2 新生児聴覚検査の料金が確認できる領収書又はこれに代わるもの（出産費用などに含まれている場合は、明細書の写しを添付）
 *3 通帳など

近隣で新生児聴覚検査を実施している医療機関		
医療機関名	電話番号	
JA 北海道厚生連旭川厚生病院	0166-33-7171	○
医療法人社団弘和会森産科婦人科病院	0166-22-6125	○
医療法人社団豊和会豊岡産科婦人科医院	0166-31-6801	
医療法人社団東光マタニティクリニック	0166-34-1188	
名寄市立総合病院	01654-3-3101	○

※ ○のついている医療機関は、他院出生児の外来検査が可能です。出生医療機関で検査を実施していなく、退院後に希望する場合は、他院出生児の外来検査が可能な医療機関に直接お問い合わせください。

検査の結果が「要再検査（リファー）」だったときには？

生まれたばかりの赤ちゃんは、耳の中に液体が残っていたり、脳の発達がまだ十分でなかったりするため、新生児期の聴覚検査にパスしないことがあります。専門の耳鼻咽喉科（精密検査実施医療機関）でさらに詳しい聴力検査を受けていただくことが必要です。

北海道内の精密検査実施医療機関		
旭川		
旭川医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	0166-68-2554	
札幌		
北海道大学病院 耳鼻咽喉科	011-716-1161	
札幌医科大学医学部付属病院 耳鼻咽喉科	011-611-2111	
北海道立子ども総合医療・療育センター	011-691-5696	
医療法人耳鼻咽喉科 麻生病院	011-731-4133	
医療法人徹仁会 厚別耳鼻咽喉科医院	011-894-7003	
とも耳鼻科クリニック	011-616-2000	

